

とっいち

十津川村立十津川第一小学校
学校だより（丸西）
2023年3月 最終号

卒業・進級おめでとございます

春、出会いと別れのシーズンがやってきました。6年生は卒業を迎え、1～5年生はそれぞれ一つずつ学年が上がり、新たな仲間を迎えて1年のスタートを切ります。一人一人が希望を胸に、新たな環境で精一杯力を発揮してくれることを祈っています。



コロナ禍の状況も少し落ち着きを見せ、いろいろなことができるようになってきそうです。来年度も感染症とのバランスを取りながら、できることを増やしていければと考えています。

先日お配りした「学校教育アンケート」の考察でもお伝えしましたが、子どもたちに確かな力を付けていくためには、学校と家庭でそれぞれができることを分担しながら取り組むことが不可欠です。「どのような力を子どもに付けていきたいのか」「そのために学校ができることは」「家庭ができることは」これらを共通認識しながら、子どもたちの24時間の中で最大限の教育効果を上げる方法を、共に考え実践していく。これしかないのではないかと考えています。今後も学校の取組の状況をできるだけお伝えするようにしていきますので、家庭での様子や取組などについても教えていただければ幸いです。学校と家庭の両輪で子どもたちの力を精一杯伸ばしていきましょう。



あいさつについてのまとめ

3年間力を入れて子どもたちと共に取り組んできた「あいさつ」について、各ご家庭でもご理解ご協力をいただき本当にありがとうございました。学校では朝のあいさつだけではなく、学校に来られる方（郵便局や宅配の方）にも自然にあいさつができる子がたくさんできてきました。本当に素晴らしい姿だと思います。その素晴らしさや価値を、今のうちに子どもたちの胸に刻んであげることが、わたしたち大人の役割だと思います。学校だけでなく家庭や地域で当たり前にあいさつできる力は、今後子どもたちが生活していく上で、必ず大きなプラスになると確信しています。「当たり前に行っているけれど、それは当たり前でできることではなく、すごいことなんだよ。」ということ、学校でも家庭でも子どもたちに伝えていきたいものですね。



来年度に向けて

令和5年度に「奈良県道徳教育研究大会」を本校で開催します。それに向けて、今年度から道徳教育の研究に取り組んできました。研究を進める中で、子どもたちの道徳性をより高めるための方法として「特別活動」との連携が有効ではないかと考えました。特別活動は自主的・実践的な集団活動を通して、様々な資質・能力を育むことを目標としています。「特別の教科 道徳」で育んだ心情を、「特別活動での実践的な活動」を通して確かなものとして身に付けていく、この流れで子どもたちの道徳性を高めていこうと考えています。

来年度の道徳については、各家庭とも連携しながら進めていけるように、様々な工夫を考えています。新たな年度になり学校が動き出したときに詳細はお知らせしたいと思いますので、学校と家庭が一連となった道徳教育が展開できますよう。よろしくお願いいたします。

